

日本語動詞の連用形¹⁾

— 日韓対照研究 —

羅 聖淑

The renyo form of Japanese verb : Contrastive studies between Japanese and Korean

Rah Sung-sook

Abstract

In this paper I classified Japanese renyo complex nouns into 7 different forms of renyo compound nouns and 2 different forms of renyo derivative nouns. I also showed how to express each example of them in Korean. There are also renyo forms in Korean, but there are none which function as nouns. Therefore when we translate Japanese renyo complex nouns into Korean, we use single words, phrases and clauses. Many renyo compound nouns which are ending with renyo forms become longer expressions in Korean when they don't have single words or compound words corresponding to those of Japanese.

I also described compound verbs where renyo forms are included. In both languages they have renyo compound verbs where renyo forms are affixed to the front part of them. In Japanese there are also te-forms which are affixed to the front part of the compound verbs including subordinate verbs. Korean renyo forms cover both renyo forms and te-forms of Japanese of the compound verbs to a large extent. The renyo forms of both languages also have grammatical functions, but Korean renyo forms have more grammatical functions than Japanese. I assume that Japanese renyo forms produce a great number of words especially renyo compound nouns and they allow simplicity when we communicate in Japanese.

1. はじめに

日本語の「動詞の連用形」(以下「連用形」と省略することもある)は、丁寧体語尾「-ます」の前に置かれ丁寧体を作るなど、文法的な働きもするが、語形成²⁾において「売り出し」・「安売り」・「売り場」のように合成語の構成要素にもなる。

複合語には、複合名詞(・複合形容動詞)、複合形容詞、複合動詞がある。本稿は、日本語の動詞の連用形が複合・派生名詞(本稿では、それぞれ「連用複合名詞」、「連用派生名詞」と呼

ぶ)の構成要素になる語形成(連用形を含む2つの要素から成る合成語のみ)の種類を取り挙げ、それらを韓国語に表すさい、どのような表現になるかを見ると同時に、日本語のそれぞれの型の語形成の生産性と、両言語の連用複合動詞、および連用形の統語機能を対比したものである。語彙や韓国語の訳は主に筆者の内省によるものであるが、見坊(1982)、李崇寧(1996)、時事英語社(1996)も参考にした。なお訳は日本語で最もよく使われる意味に対応する韓国語の直訳である。

日本大学歯学部 外国語
〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台1-8-13
(受理:2013年9月20日)

Nihon University School of Dentistry
1-8-13 Kanda-Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo 101-8310, Japan

2. 日本語動詞の連用形と語形成

まず、日本語の連用形と語形成の関わりについて見ていく。日本語の連用形は、(1)の下線部のように、動詞から転成名詞となり、連用形単独で名詞の働きをすることもあれば、(2)のように、連用複合名詞の構成要素にもなる。さらに(3)のように、複合動詞の前項の構成要素にもなる。

韓国語においては、連用形が日本語と違い、名詞になることはないものの、(4)(5)のように複合動詞の前項の構成要素にはなる。なお、韓国語で複合名詞というとき、「名詞+名詞」・「接頭辞+名詞」・「名詞+接尾辞」などの構成となっており、必ず名詞が含まれる。

- (1) 登りがきつい、帰りが早い、張りのある動き
- (2) 缶切り、焼き魚、売り出し、寄り切り、深読み、遅咲き
- (3) 飛び越える、飲み歩く、持ち上げる
- (4) 갈아입다「着替える」(‘갈아’は‘갈다’の連用形)
- (5) 끌어안다「抱きしめる」(‘끌어’は‘끌다’の連用形)

(6)(7)の下線部のように、日韓両言語において独立性のない³⁾形態素が派生語の構成要素になる。

- (6) 小売り、おかわり、お返し、未払い、飲み屋
- (7) 첫사랑「初恋」‘첫」[初の] [接頭辞]+사랑「愛」[名詞]

ここで日本の大相撲の決まり手の用語について触れておこう。大相撲の決まり手には82手(新山2008:22)があるが、この用語の中に連用複合名詞が76、連用形の単純語が1つ、合計77手の用語に連用形が含まれている。つまり大相撲の決まり手の用語の約94%に連用形(連用複合名詞だけでも約93%)が含まれていること

になる。これは連用複合名詞を用いて複雑な相撲の技を簡潔に表現できるためであることは言うまでもない。

少し具体的な例を挙げてみると、連用複合名詞の「寄り切り」は「相手の回しを持って自分の体を相手の体に密着させ、そのまま前か横に進み、相手を土俵の外に出すこと」という意味であるが、これを使うたびに言うことは大変である。しかし当然ながらこの意味さえ分かればいちいち説明せず「寄り切り」と言うだけで済む。連用複合名詞の「酢洗い(酢にちょっと浸してから酢でさっと洗うこと)」と、連用派生名詞の「素潜り(装備を付けずに水に潜ること)」などについても同様なことが言える。

このように、日本語は動詞の連用形で、複雑な意味を簡潔に表す連用複合名詞を形成するのが非常に発達しており、実に多くの語が生み出される。このような生産性の高さが日本語の語形成の特徴でもあり同時に日本語の特徴でもある。また非母語話者から日本語には名詞が多いと言われる要因にもなっていると言える。

3節では、このような日本語の連用複合名詞(・連用形容動詞)と連用派生名詞の種類と例を取り挙げ、韓国語の直訳と対照しつつ、見ていくことにする。

3. 連用合成語

3.1 連用複合語名詞

3.1.1 「名詞+動詞の連用形」型(1型)

1型の日本語の例はすべて[名詞+動詞の連用形]の構造をもつ連用複合名詞である。この型の例を韓国語に直訳すると、(1)が日本語の意味を韓国語で述べ、最後の述語の部分で‘-로/-음/-기’などの形式名詞を置き表わす名詞節、(2)が漢字語の複合名詞、(3)が「漢字語+固有語」の複合名詞、(4)が固有語の複合名詞、となり様々な形態であらわれる。なお「節」には元来主語と動詞が含まれるが、本稿で言う「名詞節」

とは主語が省略されたものとみなす。

以下の例の韓国語の右の括弧内の日本語は、韓国語に直訳した意味を日本語に表したものである（以下同様）。

- (1) 雨宿り：비를 피함 (雨を避けること)，
時計回り：시계 바늘 방향으로 돌 (時計の針の方向に回ること)，朝帰り：외박 하고 아침에 집에 돌아옴 (外泊して朝家に帰ること)，衣替え：하복/동복을 갈아 입음 (夏服・冬服に着替えること)
- (2) 耳鳴り：이명 (耳鳴)，風通し：통풍 (通風)，霜焼け：동상 (凍傷)
- (3) 梅干し：매실 (梅実) 장아찌 (漬物)，卵焼き：계란 (鶏卵) 구이 (焼くこと)
- (4) 花見：꽃구경 (花の見物)，月見：달구경 (月の見物)，嘘つき：거짓말쟁이 (嘘をつく人)，缶切り：깡통 따개 (缶を切る物)

(4)の中で特に日本の文化を表す、「花見(桜の花の下で宴会を開くなど、遊びながら桜を楽しむこと)」、「月見(ススキや団子などの食べ物を備え、収穫の感謝をしつつ月を鑑賞すること)」のような連用複合名詞は、当然でありながら韓国語にも上記で見るように、「花見」、「月見」に当たる複合名詞はあるが、日本語の方が含蓄に富んでいる表現である。なお、1型には「サル스베리(猿滑り)」という植物の名、所有格の「の」が含まれるものの「サルの腰掛」という茸の名など、筆者から見ると趣深い連用複合名詞もある。

(5)(6)の韓国語訳は省略するが、(1)~(6)の日本語の例は深層構造においては、前項が後項の様々な格関係を持つ形態となるが、その中で(5)のように、前項の名詞が後項の動作の対象を表す対格・ヲ格の形態になっている例が最も多い。そしてこの「名詞+動詞の連用形」型の語形成の生産性は非常に高いと思われる。

- (5) 物干し(=物を干す)，傘立て(=傘を立てる)，物知り(=物を知る)，茶渡し(=茶を渡す)，餅つき(=餅をつく)，皿洗い(=皿を洗う)，蚊取り(=蚊を取る)，目隠し(=目を隠す)，絵描き(=絵を描く)，山開き(=山を開き使うようにする)，綱引き(=綱を引く)，耳かき(=耳をかく)など
- (6) ジム通い(=ジムに通う)，先送り(=先に延ばす)，日帰り(=その日のうちに帰る)，学校帰り(=学校から帰る)，首飾り(=首に飾る)，波乗り(=波に乗る)山登り(=山に登る)など

なお、「無理押し」のように前項が形容動詞の語幹の場合もある。

3.1.2 「動詞の連用形+名詞」型(2型)

2型の日本語の例はすべて「動詞の連用形+名詞」の構造をもつ連用複合名詞である。この型の例を韓国語に直訳すると、(1a)が名詞で終わる名詞節、(1b)が形式名詞で終わる名詞節、(2)が漢字語の複合名詞、(3)が固有語の複合名詞、(4)が「固有語+漢字語」となり、1型と同様、様々な形態であられる。

- (1a) 晴れ男・晴れ女⁴⁾：외출하는 날에는 언제나 날씨가 좋다는 남자/여자 (出かける日にはいつも天気が晴れであるという男・女)，取り皿：각자가 들어서 먹는 작은 접시 (各自が取って食べる小さい皿)
- (1b) 歩きたばこ：걸어가면서 담배를 피움 (歩きながらタバコを吸うこと)，立ち話：선 채 이야기함 (立ったままで話をする)
- (2) 売り物：매물 (売物)，飲み会：회식 (会食)
- (3) 焼き栗：군밤 (焼いた栗)，渡り鳥：철새 (季節によって住処を移る鳥)，抜け道：지름길 (近道)，割り箸：나무젓가락 (木

の箸)

(4) 滑り台: 미끄럼대 (滑る台)

(5)の例でも見るように、「動詞の連用形+名詞」型は、深層構造において前項が連体修飾語として後項の名詞を修飾する形態となっているが、これは膠着語⁵⁾の特徴でもあるため、多くの語が生み出されやすく、語形成の生産性を高めると言える。実際語形成の生産性も非常に高いと思われる。この型は後項が名詞であるため、韓国語訳も単なる名詞や複合語になる場合が多い。なお(5)の韓国語訳は省略。

(5) 飲み物 (= 飲む物), 通り道 (= 通る道), 飼い主 (= 飼う人), 書き手 (= 書く人), 読み手 (= 読む人), 空き家 (= 人のいない家), 着物 (= 着る物), 焼き鳥 (= 焼いた鳥), 煮魚 (= 煮た魚), 焼きそば (= 炒めた麺), 消しゴム (= 消すためのゴム), 履き心地 (= 履いたときの気持ち), 買い物 (= 物を買うこと), 跳び箱 (= 跳ぶための箱) など

3.1.3 「動詞の連用形+動詞の連用形」型 (3型)

3型の日本語の例はすべて「動詞の連用形+動詞の連用形」の構造をもつ連用複合名詞である。この型の例を韓国語に直訳すると、(1)が形式名詞で終わる名詞節, (2)が複合動詞の名詞化, (3)が漢字語単純語の名詞, (4)が派生語, のように様々な形態であられる。また、この型は前項・後項両方が深層構造において動詞であるため、より複雑な意味を連用複合名詞で表現され特に効率のよい型であると思われる。そのため韓国語の直訳は、特に(1)のような形式名詞で終わる名詞節になる場合が多い。また3型も語形成の生産性が非常に高いと思われる。

(1) 立ち食い: 서서 먹음 (立って食べること), 使い回し: 다시 사용하기 (再び利用すること), 勝ち越し: 이긴 횟수가 진 횟수보다 많음 (勝った回数が負けた回数よ

り多いこと), 狂い咲き: 계절이 아닌 때에 꽃이 필 (咲く季節ではない時に花が咲くこと), 置き去り: 내버려 두고 가 버림 (置き去りにして行ってしまうこと), 乗り越し: 타고 가다 하차역을 지나침 (乗っている途中で下車すべき駅を通り過ぎること), 笑い泣き: 웃다가 울다가 함 (笑ったり泣いたりすること), 立ち入り: 어떤 장소에 들어감 (ある場所に入ること), 読み書き: 읽고 쓰기 (読むことと書くこと), 返り咲き: 계절이 지난 뒤에 다시 필 (季節が過ぎて再び咲くこと), 行き止まり: 길이 막힘 (道が塞がっていること)

(1)の日本語の「立ち食い」は「動詞の連用形+動詞の連用形」の語構造をもつが、これを韓国語に直訳すると '서서 먹음 (서서 [動詞の連用形+接続助詞]+먹음 [動詞の語幹+名詞化の接尾辞]「立って食べること」)' となり、日本語より複雑な形態となる。また日本語では「立ち食いしている」のように、「立ち食い」が転成動詞になり「立ち食いする」となるが、韓国語は '서서 먹음' に、「する」に当たる '하다' を置き、*⁶⁾ '서서 먹음하다' とは言わない。そもそも「立ち食い」の直訳である '서서 먹음' が、実際の文中にあらわれることはない。'서서 먹고 있다 (立って食べている)' のように、名詞化の部分が述語的にあらわれる。

(2) 立ち上がり: 일어섬 (起き上がること), 飛び降り: 뛰어내림 (飛び降りること)
(3) 思い出: 추억 (追憶), 落ち着き: 침착 (沈着)
(4) 使い捨て: 일회용 (一回用)

3.1.4 「形容詞語幹+動詞の連用形」型 (4型)

4型の日本語の例はすべて「形容詞語幹+動詞の連用形」の構造をもつ連用複合名詞である。この型は「形容詞+動詞」の深層構造を持つため、意味的に主に前項の形容詞が後項の動詞を連用修飾する形態となる。韓国語訳の語構造に

においても同様なことが言える。

この型の例を韓国語に直訳すると、(1a)が形式名詞で終わる名詞節、(1b)が名詞で終わる名詞節、(2)が漢字語の複合名詞、(3)がそれぞれ複合名詞、派生名詞、(4)が名詞句、のように1, 2, 3型と同様、様々な形態であられる。この型も動詞の連用形で終わるため、韓国語の訳は形式名詞で終わる節になる場合が多い。またこの4型は、形容詞が含まれる連用複合名詞の中で最も語形成の生産性が高いと思われる。なお、(5)の日本語は含みの多い意味がたった4文字で表されており、特に効率のよい表現である。

- (1a) 早咲き⁷: 꽃이 필 계절보다 일찍 피 (花の咲く季節より早く咲くこと), 早寝: 일찍 잠 (早く寝ること), 早起: 일찍 일어나 (早く起きること), 早歩き: 빨리 걸음 (早く歩くこと), 朝食: 빨리 먹음 (早く食べること), 安上がり: 싸게 치임 (安上がりであること), 遠回り: 길을 멀리 뚫 (遠回りすること), 嬉し泣き: 너무 기뻐서 울 (嬉し過ぎて泣くこと), 大盛り: 수북이 담음 (山盛りに盛ること), 高笑い: 큰 소리로 웃음 (大きな声で笑うこと)
- (1b) 厚揚げ: 두껍게 썰어 살짝 튀긴 두부 (厚く切り軽く揚げた豆腐), 高望み: 자기 신분과 분수에 넘치는 소망 (自分の身分や能力を超えた願望)
- (2) 長生き: 장수 (長寿)
- (3) 高跳び: 높이뛰기 (高跳び), 大食い: 대식가 (沢山食べる人)
- (4) 長話: 필요 이상의 긴 이야기 (必要以上の長話)
- (5) 遅生まれ: 4월 2일부터 12월 31일 사이에 태어남 (4月2日から12月31日の間に生まれること), 早生まれ: 1월 1일부터 4월 1일 사이에 태어남 (1月1日から4月1日に生まれること)

3.1.5 「動詞の連用形+形容詞語幹」型 (5型)

5型の日本語の例はすべて「動詞の連用形+形容詞語幹」の構造をもつ連用複合名詞である。この型の日本語は連用複合名詞(1)になる場合と、連用複合形容動詞(2)になる場合がある。この型の例を韓国語に直訳すると、(1)がそれぞれ、複合名詞、派生名詞、(2)が名詞節になる。また5型は4型と違い、語形成の生産性が極めて低いと思われる。

- (1) 取れ高: 수확량 (収穫量), 上げ高: 판매액 (販売額)
- (2) 望み薄: 가망이 희박함 (望みが希薄であること), 割高: 상대적으로 비쌈 (相対的に高いこと), 割安: 상대적으로 싸 (相対的に安いこと), 切れ長: 눈초리가 길게 찢짐 (目尻が長く裂けていること)

3.1.6 「副詞+動詞の連用形」型 (6型)

6型の日本語の例はすべて「副詞+動詞の連用形」の連用複合名詞である。この型の日本語の例を韓国語に直訳すると、すべてが名詞節になる。また6型の語形成の生産性は低いと思われる。

- (1) ちら見: 살짝 봄 (ちらっと見ること), ガン見: 계속해서 봄 (続けて見ること), メガ盛り: 수북이 담음 (どっさり盛ること), ポイ捨て: 아무데나 버림 (その辺に捨てること), ちょこちょこ走り: 종종걸음으로 달림 (ちょこちょこ歩きで走ること)

3.1.7 「テ形⁸⁾+動詞の連用形」型 (7型)

7型の日本語の例はすべて「テ形+動詞の連用形」の連用複合名詞である。日本語(1)は連用複合名詞ではあるが、「取って置きのもの」のように、常に格助詞「の」の前にあらわれると思われる。(2)は連用複合名詞でありながら連用複合形容動詞の例である。この型の日本語の例を韓国語に直訳すると、(1)が名詞節、(2)が複合名詞になる。また7型の語形成の生産性は極めて

低いと思われる。

- (1) 取って置き: **소중히 간직해 둬** (大切に取っておくこと)
- (2) 打って付け: **안성맞춤** (ちょうど合うこと)

3.2 連用派生名詞

3.2.1 「接頭辞+動詞の連用形」型 (8型)

8型の日本語の例はすべて「接頭辞+動詞の連用形」の連用派生名詞である。この型の日本語の例を韓国語に直訳すると、(1)と(2b)が名詞節、(2a)はそれぞれ漢字語の複合名詞と派生名詞、(2c)は固有語の複合名詞、(3)は漢字語の複合名詞である。また(4)の日本語は連用派生形容動詞であり、韓国語訳は動詞の否定形の転成名詞である。なお、8型の語形成の生産性は高くないが、ある程度はあると思われる。

- (1) 素通り: **들르지 않고 그냥 지나침** (寄らずただ通り過ぎること)
- (2a) お返し: **답례** (答禮)/**답례품** (答禮品)
- (2b) おかわり: **더 먹음** (もっと食べること)
- (2c) おにぎり: **주먹 밥** (こぶしの飯)
- (3) 未払い: **미불** (未佛)
- (4) 不揃い: **가지런하지 않음** (揃っていないこと)

3.2.2 「動詞の連用形+接尾辞」型 (9型)

9型の日本語の例は「動詞の連用形+接尾辞」の連用派生名詞である。韓国語の訳は(1a)が固有語の複合名詞、(1b)が漢字語の派生名詞、(2)が固有語の動詞からの転成名詞である。なお、(3)のように「連用形+っこ」の例では、「-っこ」を接尾辞としてみなす。また9型の語形成の生産性は低いと思われる。

- (1a) 飲み屋: **술집** (酒の家)
- (1b) やり手: **수완가** (手腕家)
- (2) 振り子: **흔들이** (揺るもの)
- (3) 駆けっこ: **달리기** (走ること)

以上、二つの要素から成る7種類の連用複合名詞と2種類の連用派生名詞を韓国語訳と対照

しつつ見てきた。前述とおり、韓国語の場合は連用形が名詞になることがないため、単純語、複合名詞、名詞句、名詞節のように、様々な形態をもった韓国語の直訳となるが、特に日本語の連用複合名詞の後項が動詞の連用形である場合、形式名詞で終わる名詞節の訳に場合が多い。そして日本語の語形成の生産性は、動詞と名詞が構成要素である1, 2, 3型が最も高い。また4型の「形容詞語幹+動詞の連用形」も生産性が高いが、4型と逆の構造をもつ5型や、6, 7, 9型は生産性が低い。さらに5, 7, 8型には連用複合名詞と連用複合形容動詞両方が存在する。なお、7型は前項がテ形である特殊な例である。

4. 連用複合動詞

本節では連用複合動詞(「振り向く」のように、「連用形+動詞」で構成される複合動詞)の日韓両言語について簡略して述べることにする。

2, 3節で見てきたように、日本語の連用形は、二つの要素から成る連用複合名詞の前項および後項の構成要素になるばかりではなく、「連用形+動詞」型複合動詞の前項の構成要素にもなる。他方、韓国語の場合は、連用形が複合名詞の構成要素にはならないものの、「連用形+動詞」型複合動詞の前項の構成要素にはなる。

日本語の複合動詞の前項は、連用形あるいはテ形で形成されて(増岡・田窪1992: 16)おり、韓国語の複合動詞の前項の連用形が、その連用形とテ形に対応する場合が多い。

益岡・田窪(1992: 17)、景山(1993: 75)(1999: 190)は日本語の複合動詞を語彙的複合動詞と統語的複合動詞に分けているが、(1)のように日本語の前項と後項の結びつきが強い語彙的複合動詞は、日本語の前項の連用形の部分に、韓国語も連用形が置かれる場合が多い。(2)は日本語の前項が連用形であるが、韓国語は前項が

名詞であるなど、連用形ではない例である。逆に(3)は韓国語が連用形で、日本語がそうでない例である。このように、両言語の複合動詞の前項に連用形が置かれるとしても語構造まで必ずしも一致するわけではない。

- (1) 飛び出す：뛰어나오다, 書き取る：받아쓰다, 追い出す：몰아내다, 振り向く：돌아보다, 座り込む：눌러앉다, 歩き回る：돌아다니다
- (2) 追い越す：앞지르다, 見送る：전송하다, 疲れ果てる：지칠대로 지치다
- (3) 벌개지다：赤くなる, 갈라서다：別れる, 꿨어앉다：ひざまずく

つぎは統語的な複合動詞の例を見てみよう。前項と後項が統語的（文法的）な関係にある統語的複合動詞は、韓国語において連用形以外の構造であられる場合が多い。たとえば日本語の統語的複合動詞の例を韓国語に訳すと、(4)の「連用形+はじまる」は、韓国語では「動詞の語幹+기 시작하다 [名詞化接尾辞+はじまる]」という構造であられ、(5)の「連用形+すぎる」は、「副詞+動詞」という構造であられており、複合動詞ではない。

- (4) 走り始める：달리기 시작하다, 食べるはじめる：먹기 시작하다
- (5) 走りすぎる：너무 달리다, 食べ過ぎる：너무 먹다

また「連用形+あう」のように、韓国語では前項が連用形の複合動詞(6)、あるいは単純語(7)、のような形であられる場合もある。

- (6) 抱きあう：(서로) 끌어안다, 喜びあう：(서로) 기뻐하다
- (7) 付きあう：사귀다

さらに、日本語のテ形の複合動詞は主に統語的複合動詞でありながら、韓国語の連用形に対応しやすい。それは、韓国語にも日本語と似た意味を持つ補助用言があるためである。日本語記述文法研究会（2009：121-142）に載っている

230のテ形を韓国語に訳したみたところ、7割近い159のテ形が韓国語では連用形であられた。ただし、韓国語では「連用形+補助用言」の結末が強い場合は複合動詞になるが、そうでない場合は複合動詞にならない。(8)(9)の前項が日本語はテ形であり、韓国語は(8)が連用形、(9)が連用形でない複合動詞である。

- (8) ついてくる：따라오다, 近づいていく：다가가다, 忘れてしまう：잊어버리다, 食べてみる：먹어보다
- (9) 行ってくる：갔다오다

以上、日本語の連用形およびテ形と韓国語の連用形が、複合動詞においてどのような関わりをもっているかを見てきた。両言語は統語的に類似しているが、複合動詞の語構造においても、類似している部分が多い。韓国語の複合動詞の前項の要素にもなる連用形と、日本語の複合動詞の前項の要素である連用形およびテ形がかなりの部分一致していることは、やはり両言語でしか見られない類似点であると言える。

5. 連用形と統語機能

5節では、日韓言語の連用形の統語的働きについて簡略して述べておくことにする。

5.1 日本語の連用形と統語機能

以下は益岡・田窪（1992）、村田（2005）を参考にした。

- (1) 丁寧体語尾「-ます」の前に置かれ丁寧体を作る。
- (2) 連用形のまま、「前件の述語+並列接続助詞」の働きをする。
- (3) 目的（連用形+に）・付帯状況（連用形+～ながら、～つつ）・原因（連用形+～ざまに）などを表す副詞節を作る。
- (4) 「～にくい・～づらい・～がたい・しやすい」等の前に置かれ、難易構文を作る。
- (5) 補助用言の前に置かれ、過度（連用形+～すぎ）、相互（連用形+～あう）、アス

ペクト（～はじめる，～だす，～つづける，～かける，～おえる，～おわる）などを表す。

- (6) 「動詞の連用形+たい」の形で，動詞を形容詞化させる。
など。

5.2 韓国語の連用形と統語機能

以下は羅 (2004) (2005) (2008) を参考にした。

- (1) 用言（動詞・形容詞・存在詞・指定詞）すべてに連用形が存在する。
(2) 韓国語の連用形は，連用形ままの形で，文脈によって平叙形，感嘆形，疑問形，命令形，勧誘形の文の述語になりうる。また丁寧形語尾（-요）を付け，丁寧体を作る。
(3) 連用形に過去形接尾辞（-았-）を置き過去形を表す。
(4) 「形容詞の連用形+하다」の形で形容詞が動詞化する。
(5) 「形容詞/存在詞（있다）/他動詞の連用形+지다」の形で自動詞化する。
(6) 「連用形+接続助詞-서」の形で，接続助詞の前に置かれ，理由，先行，様態，手段，条件を表す複文の前件となる。
(7) 連用形が補助用言の前に置かれ様々な意味を表す文法機能をもつ。

アスペクトの結果相「連用形+있다」，動詞の連用形+주다「～てやる」，動詞の連用形+보다「～てみる」，動詞の連用形+버리다「～てしまう」，動詞の連用形+오다「～てくる」など。

- (8) 慣用語句を作る。

動詞・存在詞の連用形+도 되다「～してもよい」（許可を表す）

動詞の連用形+야 하다「～ねばならない」（当為を表す）

用言の連用形+도「(し)ても」（譲歩を表す）

など。

以上，日韓両言語の連用形の統語的な働きを簡略に見てきたが，両言語とも連用形が担う統語機能があるが，日本語より韓国語の連用形が統語機能の役割が大きいと言える。なお，韓国語には多数の不規則な連用形が存在する。

6. おわりに

第一に，日本語の連用複合名詞・連用派生名詞の種類と意味を韓国語の訳と対照しながら見てきた。日本語の連用形は，連用形単独で名詞の働きをするばかりではなく，連用複合名詞・連用派生名詞の構成要素にもなり，多くの合成語が生産される。他方，韓国語にも連用形があるものの日本語と違い，名詞の働きはない。韓国語の合成名詞は必ず名詞が含まれる。したがって，日本語の連用複合名詞・連用派生名詞を韓国語に直訳すると，単純語，複合名詞，名詞句，名詞節のように様々な形態をもつ訳になる。特に後項が動詞の連用形である1型，3型，4型，6型が形式名詞で終る名詞節に訳される場合が多い。これは本稿に載せてある用例から見ると，日本語は動詞が転成名詞となり簡略された表現になるが，韓国語ではそれに当たる名詞がない場合は，その動きを陳述しなければならないためである。また，日本語の連用形が単独および合成語の要素になり名詞の働きをすることで，語形成の生産性が高まることは日本語の特徴でもあると言える。

第二に，「動詞の連用形+動詞」型の複合動詞は，韓国語にも存在しており，それが日本語の複合動詞の前項の要素である連用形およびテ形にかなりの部分が一致している点は，やはり日本語と韓国語が統語的に近い言語であることの後押しになる部分であると言える。

第三に，両言語の動詞の連用形は統語的な機能をもつが，日本語より韓国語のほうが統語機能の役割が大きいと言える。

最後に、本稿では主に日本語の視点から論じてきたが、今後は韓国語の視点からの考察も考えている。

参考文献

- 李崇寧監修 (1996) 『新国語大辞典』 韓国図書出版
中央会
- イム・ジリョン他 (2005) 『学校文法と文法教育』 図書出版パケイジョン (韓国語版)
- 景山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
- 景山太郎 (1999) 『形態論と意味』 くろしお出版
- YMB 時事英語社 辞書編纂室 『エリート日韓辞典』 YMB 時事英語社
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法』 くろしお出版
- 見坊豪紀他 (1982) 『三省堂国語辞典』 第三版 三省堂
- 村田美穂子 (2005) 『文法の時間』 至文堂
- 南基心・高永根 (1985) 『標準国語文法論』 塔出版社 (韓国語版)
- 新山善一 (2008) 『平成大相撲決まり手大辞典』 図書刊行会
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法』 2 くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 (2010) 『現代日本語文法』 1 くろしお出版
- 羅聖淑 (2004) 『韓国語 発音と文法』 白帝社
- 羅聖淑 (2005) 「韓国語아 [ア]・어 [オ] 形に関する考察」 『二重言語学会』 第29号 二重言語学会 (韓国語版)
- 羅聖淑 (2008) 『韓国語 発音と文法—第2版—』 白帝社

注

- 1) 本稿は、日本大学歯学部において2013年度から韓国語の講座が開かれることになったことを記念し、学生たちの学習の目的も兼ねて書いたものである。
- 2) 例えば「恋心」の「恋」・「心」, 「寂しがり屋」の「寂し」・「がり」・「屋」のように、形態素(語において意味を持つ最小単位)が集まって語が形成されることを「語形成」と呼ぶ。語形成の手段には複合(compounding)と派生(derivation)があり、複合によって作られる語を「複合語」、派生によって作られる語を「派生語」と呼ぶ。これらを合わせて「合成語」と呼ぶ。そして「おにぎり」の「お」のように、実質的な意味をもつ形態素「にぎり」の前に置かれる形態素を「接頭辞」, 「寒さ」の「さ」のように後に置かれる形態素を「接尾辞」と呼び、これらを合わせて「接辞」と呼ぶ。なお、韓国語の文法(南基心・高永根1985:191)(イム・ジリョン他2005:143)では日本語の「複合語」に当たる語を「合成語」, 「合成語」に当たる語を「複合語」と呼んでおり、日本語と用語が逆になっている。
- 3) 英語の場合は例えば、toothpasteのtoothとpasteのように、独立性のある語同士のみが複合語(景山1993:13)になる。
- 4) 反義語に「雨男」・「雨女」があるが、これは「名詞+名詞」の複合名詞で形態が異なる。これと同じ形態を持つ語で「年男」・「年女」もある。
- 5) 言語の分類の一つで、名詞の後に後置詞が置かれる(例;私が, 君を)、連体修飾語が名詞の前に置かれる(例; 明るい教室)、用言の語幹に接尾辞などを次から次へと付け(例; 叱られ[受身]な[否定]かった[過去])文法機能を表わす言語。
- 6) 非文法的であることを示す。
- 7) 反義語で「遅咲き」がある。この例からも想像出来るように、日本語は「花」や「時節」など自然に関わる語が大変豊富であると思われる。日本の俳句には季語が詠み込まれる決まりがあるが、それは、日本人は四季折々の自然環境で育まれた豊かな感性があるからこそ可能になることであろう。ちなみに、「桜」に関する表現に「葉桜」までである。
- 8) 補助動詞(本動詞の意味を補う動詞)などの前に置かれ、様々な意味をあらわす動詞をテ形と呼ぶ。例えば「行ってしまう」において、「行つて」が「テ形」であり、「しまう」が補助動詞である。